

悠久の長江と中国内陸を旅する



優雅な船旅を楽しめる三峡クルーズ



武漢三鎮を一望する黄鶴楼

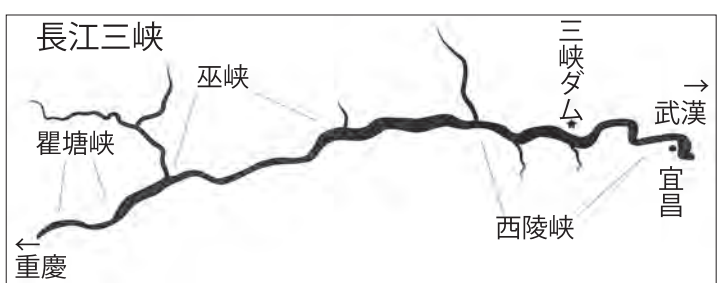
遊覧船でゆったり

長江三峡は長江の中流にあり、西陵峡(せりやうきやう)、巫峡(まじやう)、瞿塘峡(ことうきやう)の三つの峽谷の総称。大きな遊覧船でゆったりと観賞する三峡クルーズが人気を集めている。

標準的なコースは、重慶で乗船、湖北省の宜昌で下船する約4日のコース。途中、数カ所の観光地に上る。



三峡ダム全景



中国国家観光局駐日本代表処

武漢

武漢は中国内陸部、湖北省の省都で、人口約880万人。長江とその支流の漢江が合流する位置にあり、川を挟んで武昌、漢口、漢陽という三つの町に分かれる。これは総称して「武漢三鎮」と呼ばれる。1911年、清王朝を倒す辛亥革命のきっかけとなった。

●黄鶴楼
蛇山の頂上に建つ樓閣

で、三國時代、呉の孫権に、たのを見せたいと築かれた。『江南』の三鎮の全貌を一望する。その景色は「天下の絶景」とも呼ばれる。

主権の周りは勝像宝塔、碑、山門などの古代建築。吹笛などの観光エリアに分かれている。

●武漢長江大橋

秋の桂、冬の梅と、四季折々の景色を楽しむ。

●東湖
面積73平方キロの広大な三鎮の湖。湖畔には省の総合博物館。

「越王勾践剣」「曾侯乙の編鐘」をはじめ、原始時代から現代までの、14万点を誇る貴重な文化財を収蔵している。

●赤壁古戦場

武漢市内からおよそ100キロ離れた赤壁市にある三鎮の古戦場。後漢末期の208年、曹操軍と孫権、劉備連合軍が赤壁で戦い、連合軍が勝利。その戦いは三國志の物語の中でも名場面とされている。

●宜昌
三峡クルーズの終点、湖北省の宜昌市。三峡の門戸と呼ばれる三峡観光の拠点。かつての宜昌、かつての夷陵とも呼ばれた400余年の古い歴史を持つ都市。

三峡クルーズの起点「重慶」三國志の舞台「武漢」

重慶



重慶は北京、上海、天津は「渝」。山を背にして川に続く、中国4番目の中央直轄市。中央直轄市とは省と同格の行政区。もともとは重慶市と重慶県。1997年、内陸部で初めて指定を受けた。

●重慶市人民大礼堂
市の集会和行事が行われる会場で、重慶のランドマーク的存在。礼堂の高さは100メートル。円形ホールは4200人余りを収容できる。1954年の完成で、北



長江と嘉陵江の合流点、朝天門広場を望む(撮影・馮学敏)

内陸部初の中央直轄市 二つの世界遺産も注目

構成され、二つの川が流れ込み、四つの基本展示がある。三峡クルーズが発着する重慶市人民大礼堂。収蔵文物は17万点余。

●重慶中国三峡博物館
嘉陵江のほとりであり、明清時代の古い建物が残っている。明清時代に青花磁器の生産と搬送が盛んだったこと、そこからこの名が付いた。



重慶市人民大礼堂



大足石刻(宝頂山石刻群)



中国南方カルスト(天生三橋)



武漢近郊の赤壁古戦場(赤壁摩崖石刻)



楼閣から眺める「天下の絶景」

長江三峡

長江三峡は長江の中流にあり、西陵峡(せりやうきやう)、巫峡(まじやう)、瞿塘峡(ことうきやう)の三つの峽谷の総称。大きな遊覧船でゆったりと観賞する三峡クルーズが人気を集めている。

標準的なコースは、重慶で乗船、湖北省の宜昌で下船する約4日のコース。途中、数カ所の観光地に上る。

三峡クルーズの終点、湖北省の宜昌市。三峡の門戸と呼ばれる三峡観光の拠点。かつての宜昌、かつての夷陵とも呼ばれた400余年の古い歴史を持つ都市。

三峡クルーズの終点、湖北省の宜昌市。三峡の門戸と呼ばれる三峡観光の拠点。かつての宜昌、かつての夷陵とも呼ばれた400余年の古い歴史を持つ都市。

三峡クルーズの終点、湖北省の宜昌市。三峡の門戸と呼ばれる三峡観光の拠点。かつての宜昌、かつての夷陵とも呼ばれた400余年の古い歴史を持つ都市。